

田村のつぶやき 第7号

2023.7.10 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

「ん」の謎

日本語に「ん」で始まる言葉はありません。「ん」で始まる人名もありません。しりとりで「ん」で終わる言葉を言ったら負けてしまうのは、次につながる言葉がないからです。日本語だけでなく、世界の言語に目を向けてみても、「ン」という発音で始まる言葉はほとんどありません。例えば、アフリカのチャド共和国の首都名（N´ Djamena）は日本語で「ンジャメナ」と表記されますが、外務省のHPでは「ウンジャメナ」と記載されています。実際に現地の人がどのように発音しているかわかりませんが、本当は「ン」とも「ウン」とも微妙に違うのかもしれない。

小学校の時に、五十音図を習ったと思います。タテに「あ（A）」から「お（O）」の母音が並び、ヨコに「か（K）」から「わ（W）」までの子音が並んでいます。タテヨコを結べば子音と母音の組合せで、日本語の基本的な文字と発音が理解できます。「ん」は母音でも子音でなく、決して言葉の頭には現れず、しかも「かきくけこ」のような清音でも「がぎぐげご」のような濁音でもない不思議な文字です。「ん」は五十音図の最後、というよりその枠外に置かれています。そもそも「ん」という文字は、かつては存在しなかった文字です。例えば、奈良時代に編纂された『古事記』や『日本書紀』などの文献には登場しません。もっともこの時代には、まだ「ひらがな」も「カタカナ」も存在しないので、当時は『万葉集』の和歌も、いわゆる万葉仮名で表記されていました。万葉仮名に「ん」は登場しません。例えば「天地」も「テンチ」ではなく「あめつち」と読みます。『古事記』は、天武（てんむ）天皇の命を受けて稗田阿礼（ひえだのあれ）が誦習していた『帝紀』『旧辞』を太安万侶（おおのやすまろ）が書き記し、編纂したものではないですか？」と日本史選択者なら「あれ？」と思いますよね。実は、「天武」というのは諡号といって、死後に後から贈られた名前です。「諡」は「おくりな」と読み、まさに「贈り名」の意です。ですから天武天皇は、当時は天淳中原瀛真人天皇（あまのぬなはらおきのみひとのすめらみこと）といったのです。「ん」はありませんよね。

二人の呼吸がピッタリと合っていることを、「阿吽（あうん）の呼吸」と言います。「阿」とは古代インドの言葉であるサンスクリット語では口を開いて最初に出す音であり、「吽」は口を閉じて最後に出す音とされます。ですから「吽」は「うん」と読みますが、実は「ん」ではないかと思います。日本語の五十音図も「あ」で始まり、最後に「ん」で終わります。寺院の山門にある金剛力士像の一对の像は、必ず一方は「あ」の形に口を開き、もう一方は「ん」の形に口を閉じています。

普段何気なく使っている「ん」という文字ひとつとってみても、実に奥深いと思いませんか。今まで知らなかったことを知ることは、実に楽しいと思いませんか。人は何歳になっても学び続けることができます。高校時代の勉強が何の役に立つのかわからないという人もいるかもしれません。私に言わせれば、「**学び方を学んでいる**」のです。紙面が尽きました…続きは次号へ。